

第1問 取引の仕訳を答える問題である。以下赤字は日商簿記ゼミ3級教本改訂版参照ページである。

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	買掛金	270,000	支払手形	270,000
2	現金	7,600	売上	16,000
	受取商品券	10,000	仮受消費税	1,600
3	旅費交通費	2,600	仮払金	3,300
	消耗品費	700		
4	備品減価償却累計額	561,000	備品	660,000
	現金	3,000		
	固定資産売却損	96,000		
5	普通預金	300	受取利息	300

1. 買掛金の支払いとして約束手形の振り出したときの処理に関する問題である。P.83

- ・買掛金の決済とは、買掛金（負債）を支払ったということである。

(借) 買掛金 270,000

- ・約束手形を振り出すと、後で手形金額を支払う債務が発生するので、支払手形勘定（負債）の貸方に記入する。

(貸) 支払手形 270,000

2. 商品の売上げとそれにかかわる消費税の処理、ならびに代金の受取り（現金・商品券）に関する問題である。

- ・商品を売り上げた。

(貸) 売上 16,000

- ・商品の販売にともない受け取った消費税は、仮受消費税勘定（負債）で処理する。P.111

(貸) 仮受消費税 1,600

- ・¥7,000 は現金で受け取った。

(借) 現金 7,600

- ・商品券を受け取ったときは、商品券の発行元に対して後で現金を受け取る債権が発生するので、受取商品券勘定（資産）で処理する。P.105

(借) 受取商品券 10,000

POINT 消費税の処理

商品を売ったから受け取る→仮受消費税（負債）

商品を買ったから支払う →仮払消費税（資産）

3. 交通費等を IC カードで支払ったときの処理に関する問題である。P.100

- ・ 旅費交通費および消耗品費を支払った。

(借) 受旅費交通費 2,600

消耗品費 700

- ・ IC カードにチャージした時に仮払金勘定で処理したとあるので、IC カードで交通費等を支払った時は、仮払金勘定（資産）の貸方に記入する。

(貸) 仮 払 金 3,300

4. 間接法で記帳されている備品の売却に関する問題である。P.136

- ・ 売却時点における備品に関する勘定は次のように記録されている

備 品	備品減価償却累計額
660,000	561,000
↑ 取得原価	

- ・ 備品を売却したことで両勘定の残高をゼロにする。そのため、それぞれの勘定の反対側に同額を記入する

(借) 備品減価償却累計額 561,000 (貸) 備品 660,000

- ・ 代金は現金で受け取った。

(借) 現 金 3,000

- ・ 帳簿価額が¥99,000（備品勘定¥660,000 - 減価償却累計額¥561,000）の備品を¥3,000 で売却したので、その差額¥96,000 が固定資産売却損になる。

$$\begin{array}{rcl} \text{売却価額} & - & \text{帳簿価額} = \text{固定資産売却損益} \\ \text{¥3,000} & & \text{¥99,000} & - & \text{¥96,000 (固定資産売却損)} \end{array}$$

(借) 固定資産売却損 96,000

※なお、固定資産売却損は貸借の差額として求めてもよい。

5. 普通預金の利息に関する問題である。

- ・ 普通預金に入金されたので、普通預金（資産）が増加する

(借) 普通預金 300

- ・ 入金されたことから、利息は受取利息（収益）であることがわかる。

(貸) 受取利息 300

第2問 補助簿の記入から仕訳を推定する問題である。

【解答】

X8 年		仕 訳			
		借方科目	金 額	貸方科目	金 額
2	5	仕 入	203,000	買 掛 金 現 金	200,000 3,000
	14	現 金	400,000	売 上	400,000
	25	買 掛 金	52,000	仕 入 現 金	50,000 2,000
	28	現 金	1,000	現金過不足	1,000

【解説】取引の仕訳

- 2/5 ・ 現金出納帳の支出欄に¥3,000、買掛金元帳の貸方に¥200,000 があること、
 そして、現金出納帳の摘要欄に「仕入の引取運賃支払い」、買掛金元帳の摘要欄に「仕入れ」とあること
 から、2/5 日の取引は、「商品¥200,000 を掛けて仕入れ、引取運賃¥3,000 を現金で支払った」取引であ
 ることがわかる。
- 2/14 ・ 売上帳の摘要欄から、(借) 現金 400,000 (貸) 売上 400,000 の仕訳が推定できる。
 このことから、現金出納帳の 2/14 の収入欄は¥400,000 となり、現金出納帳の残高欄の空欄をすべて埋
 めることができる。
- 2/25 ・ 現金出納帳と買掛金元帳それぞれの摘要欄から、2/5 日の多摩商店からの仕入商品の返品取引であるこ
 とがわかる。
 2/25 (借) 買掛金 ×× (貸) 仕入 ××
 一方、買掛金元帳の借方の¥52,000 と現金出納帳の支出欄の¥2,000 から、
 (借) 買掛金 52,000 (貸) 現金 2,000
 がわかるとともに、貸方の仕入は¥50,000 となる。
- 2/28 ・ 現金出納帳の帳簿残高は¥325,000、それに対して実際有高は¥326,000 である。つまり、¥1,000 の現金過
 剰である。したがって、現金勘定の借方と現金過不足勘定の貸方にそれぞれ¥1,000 を記入する。
 ※確認 現金不足 (帳簿残高 > 実際有高) (借) 現金過不足 ×× (貸) 現 金 ××
 現金過剰 (帳簿残高 < 実際有高) (借) 現 金 ×× (貸) 現金過不足 ××

第3問 1月末の残高試算表と2月中の取引から2月末の残高試算表を作成する問題である。

【解答】

残高試算表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
2月28日	1月31日		1月31日	2月28日
106,000	126,000	現 金		
568,000	250,000	当座預金近畿銀行		
265,000	390,000	当座預金関東銀行		
25,000	100,000	受 取 手 形		
270,000	480,000	売 掛 金		
960,000	270,000	電 子 記 録 債 権		
410,000	410,000	繰 越 商 品		
2,900,000	2,900,000	建 物		
3,000,000	3,000,000	土 地		
		支 払 手 形	190,000	20,000
		買 掛 金	330,000	450,000
		電 子 記 録 債 務	160,000	740,000
		所 得 税 預 り 金	7,000	6,000
		建物減価償却累計額	580,000	580,000
		資 本 金	5,000,000	5,000,000
		繰越利益剰余金	906,000	906,000
		売 上	12,000,000	13,190,000
10,570,000	9,600,000	仕 入		
1,540,000	1,400,000	給 料		
50,000	50,000	支 払 手 数 料		
96,000	87,000	通 信 費		
122,000	110,000	水 道 光 熱 費		
10,000		(貸 倒 損 失)		
20,892,000	19,173,000		19,173,000	20,892,000

【解説】

解答手順

1. 2 月中の取引の仕訳を行う。

1 日	(借) 仕	入	520,000	(貸) 買	掛	金	500,000
					現	金	20,000
2 日	(借) 売	掛	金	800,000	(貸) 売	上	800,000
4 日	(借) 当座預金近畿銀行		500,000	(貸) 売	掛	金	500,000
5 日	(借) 買	掛	金	130,000	(貸) 当座預金近畿銀行		130,000
8 日	(借) 売	掛	金	390,000	(貸) 売	上	390,000
9 日	(借) 仕	入	450,000	(貸) 買	掛	金	450,000
10 日	(借) 所得 税 預 り 金		7,000	(貸) 当座預金近畿銀行			7,000

※所得税の源泉徴収額とは、給料の支払時に預かった従業員の所得税のことで、給料支払時に所得税預り金勘定（負債）で処理する。

11 日	(借) 当座預金関東銀行		200,000	(貸) 電 子 記 録 債 権		200,000	P.89
12 日	(借) 電 子 記 録 債 務		120,000	(貸) 当座預金関東銀行		120,000	
17 日	(借) 電 子 記 録 債 権		900,000	(貸) 売	掛	金	900,000
18 日	(借) 貸 倒 損 失		10,000	(貸) 電 子 記 録 債 権		10,000	
19 日	(借) 買	掛	金	700,000	(貸) 電 子 記 録 債 務		700,000
22 日	(借) 当座預金近畿銀行		75,000	(貸) 受 取 手 形		75,000	
23 日	(借) 当座預金近畿銀行		50,000	(貸) 当座預金関東銀行		50,000	
24 日	(借) 支 払 手 形		170,000	(貸) 当座預金近畿銀行		170,000	
25 日	(借) 給	料	140,000	(貸) 所 得 税 預 り 金		6,000	
				当座預金関東銀行		134,000	
28 日	(借) 水 道 光 熱 費		12,000	(貸) 当座預金関東銀行		21,000	
	通 信 費		9,000				

2. 残高試算表の作成

2 月 28 日の残高の求め方は、当座預金近畿銀行を例にすると次のようになる。

$$[例] \quad 1/31 \text{ 残高} \quad 2/4 \text{ 借方} \quad 22 \text{ 借方} \quad 23 \text{ 借方} \quad 5 \text{ 貸方} \quad 10 \text{ 貸方} \quad 24 \text{ 貸方} \quad 2/28 \text{ 残高}$$

$$250,000 + 500,000 + 75,000 + 50,000 - (130,000 + 7,000 + 170,000) = 568,000$$

第4問 文章を完成させる問題である。

【解答】

ア	イ	ウ	エ	オ	カ
⑮	⑪	②	⑩	⑦	④

- 【解説】
1. P.129 (2) 貸倒れが発生したときの処理
 2. P.119 ②利益準備金の計上
 3. P.38 (1) 主要簿と補助簿
 4. 参考

資本的支出と収益的支出

有形固定資産について

- ・修繕費など支出をした会計期間の費用として処理する支出を収益的支出といい、
- ・固定資産の据付費や試運転費など使用前に支出した費用や、固定資産の使用可能期間を延長させるなど価値を増加（改良）させるための支出を資本的支出という。

5. 損益法と財産法 P.22 および P.24
6. P.36 (2) 転記

第5問 貸借対照表と損益計算書を作成する問題である。

【解答】

貸 借 対 照 表

(単位：円)

現 金	310,000	買 掛 金	(630,000)
普 通 預 金	(550,000)	(未 払) 消 費 税	(351,000)
売 掛 金 (700,000)		未 払 法 人 税 等	(200,000)
貸 倒 引 当 金 <u>(△ 7,000)</u>	(693,000)	(未 払) 費 用	(10,000)
商 品	(400,000)	借 入 金	(1,500,000)
(前 払) 費 用	(40,000)	預 り 金	(18,000)
建 物 (2,200,000)		資 本 金	(3,000,000)
減 価 償 却 累 計 額 <u>(△ 300,000)</u>	(1,900,000)	繰 越 利 益 剰 余 金	(384,001)
備 品 (600,000)			
減 価 償 却 累 計 額 <u>(△ 399,999)</u>	(200,001)		
土 地	2,000,000		
	<u>(6,093,001)</u>		<u>(6,093,001)</u>

損 益 計 算 書

(単位：円)

売 上 原 価	(6,540,000)	売 上 高	(10,010,000)
給 料	(2,200,000)		
法 定 福 利 費	(210,000)		
支 払 手 数 料	(60,600)		
租 税 公 課	(150,000)		
貸 倒 引 当 金 繰 入	(4,000)		
減 価 償 却 費	(200,000)		
支 払 利 息	(60,000)		
そ の 他 費 用	(250,000)		
法 人 税 等	(200,000)		
当 期 純 利 益	(135,400)		
	<u>(10,010,000)</u>		<u>(10,010,000)</u>

【解説】

[決算整理事項]

1. 仮受金勘定の整理

(借) 仮受金 69,400 (貸) 売掛金 70,000
 支払手数料 600

※・入金時に行われた仕訳 (借) 普通預金 69,400 仮受金 69,400

・上記、仮受金が売掛金¥70,000 の回収であったことから、仮受金¥69,400 と売掛金¥70,000 を相殺する。
 なお、差額¥600 は当社負担の振込手数料である。

2. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 4,000 (貸) 貸倒引当金 4,000
 -費用- -売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額の計算

$$\begin{array}{rcccl} & \text{売掛金} & & & \\ & (\text{¥770,000} - \text{¥70,000}) & \times 1\% & - & \text{¥3,000} & = & \text{¥4,000} \\ \text{試算表} & \text{整理事項 1.} & & & \text{貸倒引当金残高 (試算表)} & & \end{array}$$

3. 売上原価の計算

(借) 仕入 440,000 (貸) 繰越商品 440,000 … 期首商品棚卸高 (試算表「繰越商品」)
 (借) 繰越商品 400,000 (貸) 仕入 400,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

4. 減価償却費の計上

(借) 減価償却費 200,000 (貸) 備品減価償却累計額 200,000
 -費用-

※減価償却費の計算 (定額法)

$$\begin{array}{rcc} \langle \text{建物} \rangle & \text{取得原価} & \text{耐用年数} \\ & \text{¥2,200,000} & \div 22 \text{年} = \text{¥100,000} \end{array}$$

$$\begin{array}{rcc} \langle \text{備品} \rangle & \text{取得原価} & \text{耐用年数} \\ & \text{¥400,000} & \div 4 \text{年} = \text{¥100,000} \end{array}$$

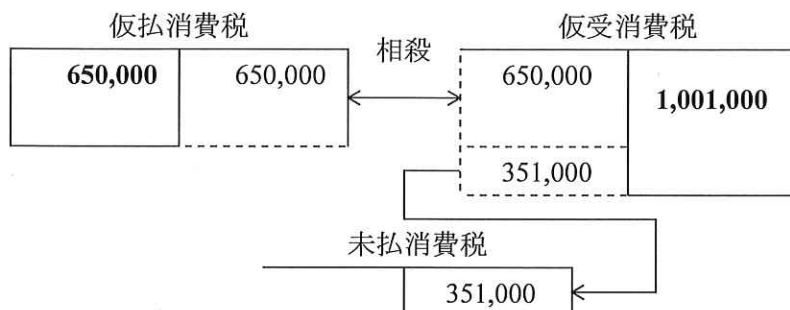
備品のうち¥200,000 については昨年度までで減価償却が終わっているので、今年度は減価償却を行わず、残りの¥400,000 についてのみ減価償却を行う。

5. 消費税の処理

(借) 仮受消費税 1,001,000 (貸) 仮払消費税 650,000

未払消費税 351,000

—負債—



6. 社会保険料の当社負担分の計上

(借) 法定福利費 10,000 (貸) 未払法定福利費 10,000

※貸方は未払金勘定の方が適切なのではないかと考えられる。

しかし、B/S に未払金の項目がないので、ここでは未払法定福利費勘定で処理する。

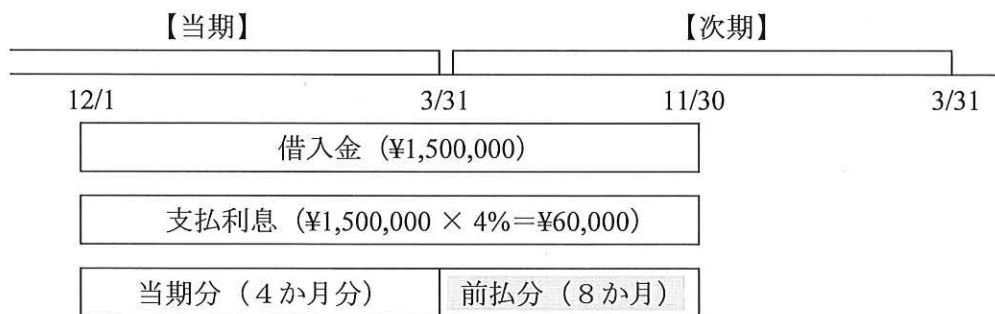
※ POINT 1. 未払法定福利費勘定は負債の勘定である。

2. 貸借対照表には未払費用として記載する。

7. 前払利息の計上 (費用の前払い)

(借) 前払利息 40,000 (貸) 支払利息 40,000

—資産—



▲ 利息 1 年分支払い

※支払利息勘定¥100,000 のうちの¥60,000 については、上記の図のとおり、

当期分は 4 か月分であり、残り 8 か月分が前払 (未経過) 分である。

そこで、前払分を次期に繰り延べるため、支払利息勘定から前払利息勘定 (資産) に振り替える。

$$\text{前払利息} \quad ¥60,000 \times \frac{8 \text{ か月 (前払分)}}{12 \text{ か月}} = ¥40,000$$

※ POINT 1. 前払利息勘定は資産の勘定である。

2. 貸借対照表には前払費用として記載する。

8. 法人税等の計上

(借) 法人税等 200,000 (貸) 未払法人税等 200,000
 -費用-

※ P.154 (4) 法人税等の計上参照

[貸借対照表・損益計算書作成上の POINT]

貸借対照表

1. 貸倒引当金は売掛金から控除する形で記載する。
2. 減価償却累計額は建物および備品から控除する形で記載する。
3. 未払法定福利費は「未払費用」(負債)、前払利息は「前払費用」(資産)として記載する。
4. 繰越利益剰余金と当期純利益の関係は次のとおりである。

決算整理前残高試算表		貸借対照表
繰越利益剰余金	当期純利益	繰越利益剰余金
¥248,601	+	= ¥384,001
	¥135,400	

損益計算書

1. 仕入勘定の残高は「売上原価」として記載する。
2. 売上勘定の残高は「売上高」として記載する。